

【1 回目登壇】

こんにちは。日本維新の会の辻信行でございます。

第9回定例会におきまして、質問の機会をいただきありがとうございます。先輩、同僚議員の皆さまにおかれましては、しばらくの間、ご清聴のほど、よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスが今なお猛威をふるっており、今回の第7波は感染者数が大変多く、職員の皆さま、医療従事者の皆様など対応にあたられている多くの方々に、改めて心から感謝申し上げます。市民の皆様とともに、引き続き、感染防止の徹底に努めてまいりたいと思います。

また、今年は夏の到来が早く、6月下旬から猛暑が続くとともに、大雨や暴風などによる被害が全国各地で発生しています。被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。また、様々な自然災害への備えの必要性を、より一層感じております。今一度、市民の皆様にとしっかりと周知を図り、日頃からの備えを心がけていく必要があります。

それでは、質問に入らせていただきます。

稲村市長が、今期限りでの退任を表明され、今回の議会が稲村市政に対する最後の質問の機会となりました。稲村市政12年間に対する市長自身の評価なども含め質問をしてまいります。

まずは、稲村市長、12年間、大変お疲れさまでした。12月まで残り3か月、まだまだ多くの課題に取り組んでおられる状況かと思います。最後まで、尼崎市民のために市政の舵取りをどうぞよろしくお願いいたします。12年前、兵庫県議会議員であった稲村市長は、尼崎市初の女性市長であった白井前市長の後を受け、当時、全国最年少女性市長、さらに二代続けて女性市長として、就任されました。私自身、国会議員の秘書としての立場ではありましたが、地域の様々な催しで、土日休みなく稲村市長が職務に邁進されている姿を目にしておりました。就任まもない2011年3月には東日本大震災が発生し、学生時代の阪神淡路大震災でのご自身の経験を活かして、迅速な対応を重ねて来られました。12年間、市政

運営に全力投球されてきたことに、心から敬意を表します。

稲村市長は退任会見で、「本市の財政再建に一定の道筋をつけることができた」と言われ、これは稲村市政にとっての大きな改革の1つであったと思います。しかしながら、尼崎市に必要な改革は財政改革だけではなかったはずです。稲村市長がこの12年間で財政改革以外に改革できたものについて、市長の思いとともに聞かせください。

最後の3年間はコロナ禍での市政運営となりました。12年前に取り組もうと思っていたことが結果として実現できなかったこと、逆に、突然目の前に課題として表れて、取り組む必要に迫られたことなどもあったかと思います。市長が12年間でやりたくてもできなかった施策、十分な取組ができなかった施策があれば聞かせください。

また、退任会見では、市長の仕事にはこれで十分という終わりがなく、次にバトンを渡すところまでが責任とも言われていました。稲村市長が12年間の経験をもとに、これだけは次の市長にもぜひ引き継いでもらいたい施策があれば、ぜひ聞かせください。

12年という大変長い期間、市政の舵取りを担われた稲村市長にとっては、尼崎市に対して、様々な思いをお持ちのことと思います。稲村市長は「未来へつなぐ」をキャッチフレーズとされていました。今後の尼崎市政に対する期待や未来の尼崎市への思いなどがあれば聞かせください。

以上で、1回目の質問を終わります。

【2回目登壇】

答弁をいただきありがとうございます。

次に、稲村市政の12年間で、私が特に気になる取組について、順次お伺いします。

まずは、地域担当職員についてお伺いします。

令和元年度に各小学校区単位に地域担当職員が配置されて、約3年半が経過しました。稲村市政の主要な取組である自治のまちづくりの体制として、地域で活動する人や団体を結び、結果として、地域力の向上につなげる役割であると認識しております。

一方で、地域には様々な課題が山積しており、本市独自に配置されている職員であるからこそ、ただ単に、地域の人と人を結びつけるだけではなく、防犯対策や防災対策など幅広い範囲に活動を広げ、地域住民や各分野の職員とともに取り組む必要があると感じています。

お伺いします。

地域担当職員が配置され、配置前と比べて行政と地域との関係に何か変化はあったでしょうか。地域からはどう評価されていると認識していますか。現時点において、地域担当職員の配置をどう評価し、何を課題として認識しているかお聞かせください。

職員を配置する以上、地域力の向上に確実につなげ、その成果は多くの市民が理解し、納得できるよう、検証する必要があると思います。

地域担当職員の配置は、確実に地域力の向上につながっていますか。現時点での具体的な検証状況についてお聞かせください。

次に、保育士確保の取組についてお伺いします。

「あまのかけはし」が本格稼働して、まもなく1年を迎えます。就業マッチングなど保育士不足の解決のための事業が行われています。

現時点での、「あまのかけはし」の利用状況、就業マッチングの実施状況、マッチングにより市内保育所への就職が実現した状況など、現状をお聞かせください。

次に、都市農業政策についてお伺いします。

市内の農地保全・農業振興については、議会での積極的な質問を繰り返してまいりました。稲村市長には大変前向きに取り組んでいただき、農政課の体制の充実を図るとともに、中学校給食の導入にあたっては、第1回目の給食に尼崎市のお米を使用していただきました。

子育て世代の定住転入を大きな目玉施策としている本市においては、新たな住宅地開発も

積極的に行われており、都市農業は大変難しい状況となっています。一方で、子どもたちを巻き込んだ農業のイベントなども、農業者の方々と一緒に積極的に行っていただいております。都市農業政策は、ここ数年で取組が大きく進んだと思います。農地は、防災や福祉の観点からも大変重要なものです。ぜひ、この流れを後退させることなく、尼崎市としての都市農業政策を、さらに前に進めていただきたいと思います。都市農業政策について、市長として「未来へつなぐ」思いを、ぜひお聞かせください。

最後に、防災対策についてお伺いします。

避難所などでの対策には前向きに取り組んでいる状況ですが、特に、個人での食料品備蓄についての呼びかけは、不十分ではないでしょうか。地域によっては積極的な取組を行っているところもありますが、全市で取組が浸透しているとは言えません。避難所に行けない市民に対し、自宅に食料品を届ける仕組みがあれば良いですが、現状では難しい状況です。災害はいつやってくるかわかりません。想定外も起こることがあります。コロナ禍で、「食料品の確保は重要である」と認識する市民も増えてきております。1人暮らしも含めた家族形態ごとのローリングストックの方法など、個人でできる具体的な方法の周知を、これまで以上に行うべきではないでしょうか。お考えをお聞かせください。

以上で、私の質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。